

公表:令和 6 年 2 月 7 日

事業所名 まなび家大阪

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			施設内全体にタイルカーペットを敷いて、利用者がより過ごしやすくなるようにした。
	2	職員の配置数は適切であるか		○		常勤専従者が育児休業中のため人手不足を感じる事が多くなった。そのため、ハローワークや民間の人材紹介企業を活用して人材確保に努めている。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		事業所全体の目標を反映した社員一人一人の具体的な目標を設定して業務改善につなげる必要がある。業務の煩雑化を避ける意味で、より簡潔な文章で書けるようなフォーマットを作成する。
	4	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケートで保護者からの要望・苦情等があれば職員間で情報を共有し、改善策を考えて実行している。
	5	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			自己評価結果はホームページ上で公開している。
	6	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		職員の希望があれば、講演会等の外部研修に積極的に参加してもらっている。
適切な 支援の 提供	7	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか		○		事前アセスメントの段階での個別新計画書のみでは不十分なので、子供の様子を見て改めて分かった点や課題等を踏まえて、その都度変更していく。
	8	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			厚労省で公開されているアセスメントシート等を参考にして標準的なツールを作成して活用している。
	9	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○		イベントは毎回内容の工夫がされているが、平日の活動プログラムについては改善の必要がある。具体的にはICTを用いた教材の導入や、個々の状態に応じたSSTの活動プログラム等を策定と実行などを検討する。
	10	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		事前にできるだけ多く長居公園の体育館を予約し、夏休み中は運動療育に力を入れるようにした。
	11	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個別活動と集団活動の担当者が異なる場合が多いため、情報共有をして個別支援計画作成時の資料にしている。
	12	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			午前中に各職員が前日の活動で気になった点や問題行動だと判断した事、保護者からの連絡事項等を報告し、情報共有を徹底している。問題行動には職員全体で対処している。
	13	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○		各職員が気になった行動については、出来るだけその日のうちに児発管に報告するようにしているが、送迎等の関係で職員間でのミーティングは難しい。
	14	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日々の活動と共に、気になった点などはエクセルで記録を取り、パソコンの共有データとして職員が随時閲覧出来るようにしている。
	15	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○		モニタリングは出来るだけ時間調整をして保護者と面談を行う必要がある。仕事の都合でどうしても無理な場合は、電話での話し合いを行う事とする。
	16	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか		○		正社員については今一度ガイドラインの熟読を励行し、業務内容の改善に努める。